

06・最高に気持ちいい『恋人同士のラブラブ快樂漬け本気セックス』

『05・頑張った日の、あまあま褒め合いラブラブキス』からそのまま続き。  
とある年の春。四月二十三日、土曜日。

日付が金曜日から土曜日が変わったばかりの時刻。

日本のとある、かなり寒い地域の政令指定都市。

天気は晴れ。室温は二十四度。

場所は、七緒の自宅、自室。

主人公と七緒、一緒に七緒のベッドに入って主人公が上になり、七緒に覆いかぶさる形で身体を重ねている。

二人ともすでに裸になっており、主人公は、うっとり七緒の右胸を吸っている。

そんな主人公を、七緒はちょっとにやにと、でも、いとおしそうに見ている。

だから主人公はどこまでも彼女に許され、甘えてしまいたくなっている。

※このトラックは『絶頂ポイント』を迎えるまで基本的にずっと『少し苦しそうに、快感

をこらえるように』話します。

『明らかに愛撫されていない場面』のみ『少し苦しそうに、快感をこらえるように』の要素がなくなります。

SE1 七緒がベッドの上で動く音

【最初から最後まで流す】

●正面 15センチ

「【鼻から抜けるように、小さく喘ぐ。

主人公に乳首を吸われ始め、とても気持ちがいいので】

ん………♥

【小さく息をつく。とても気持ちがいいので。

語尾が下がる】

はあ。

【高く、小さく喘ぐ。

他の喘ぎよりも長めに『びくっ………♥』と感じている】

あ……………っ♥「

〈主人公〉

「なー……♡ 好き♡ 好きだっ……♡」

主人公がするような声で甘くささやくと、七緒はますます嬉しそうにする。

乳首を吸われていると、恋人としてだけでなく、まるで母親にもなった気持ちなのだろう。

その気持ちは主人公もわかるから、照れるけれど、幸せだ。

七緒、夢中で自分の右乳首を吸っている主人公の頭を抱いて、髪を撫でながら話す。

● 正面 15センチ

「【鼻から抜けるように、嬉しそうに笑う。

主人公に『好き』と言われ、その言葉がとても嬉しいので】

……ふふっ♡

【甘々に。優しく言い聞かせるように】

私も好き。先輩の事、だ〜い好き♡

【とても優しく。

今日一日、自分のために様々な事をしてくれた主人公を、心からねぎらい、癒したいの

で」

先輩。いい子いい子♡ 今日も沢山頑張ったね♡

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

まだ余裕がある」

はあ……はあ……はあ。

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

まだ比較的余裕がある」

はあ……はあ……はあ……っ♡

【鼻から抜けるように、小さく喘ぐ。

主人公に乳首を吸われているのが、とても気持ちがいいので。

本当は、もっと話していたいところだ。

だが、それも難しいのではないかと思う位、気持ちがいいので」

ん……っ♡

【※1回※ ゆっくりと息をつく。

まだ乳首を吸われ始めたばかりだが、すでに非常に気持ちいいので。

それでも何とか、また会話が出来る程度に持ち直したいので」

……ふう。

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

ひとつ前よりは少し早くなる。

感じ始めて、最後の『はあ……♡』の語尾が上がる』  
「はあ……はあ……はあ……♡」

〈主人公〉

「んっく……♡　ちゅぶ♡　ちゅぱっ♡」

主人公、七緒の乳首を夢中で吸う。

七緒とこうしていると、あまりにも温かくて、気持ちよくて幸せで。  
七緒の事以外は、何も考えられなくなってしまうのだ。

●正面　15センチ

「『つい笑みがこぼれる。』

主人公が夢中で自分の乳首を吸っており、それがとても可愛らしいので」  
……ふふ♡

「穏やかに優しく。意地悪な要素は0で。

どちらかというと『主人公のママ』の気分になっている。  
なので『ですか』が『でちゅか』と赤ちゃん言葉になる。

主人公の頭を優しく撫でながら。

以後『なー』はすべて『七緒』のあだ名】

かわいー。夢中で吸ってる♡

先輩♡ なーのおっぱいおいちいでちゅか……？」

〈主人公〉

「うん……♡」

素直に頷けば、七緒は満足げだ。

くすくす笑いながら、さらに優しく髪をかき混ぜてくる。

●正面 15センチ

「嬉しくて笑みがこぼれる。

主人公が自分の問いに素直に頷き、それがとても可愛らしいので】

……ふふふふ♡

【甘々に上機嫌で。

主人公に対して『何でもしてあげたい』という気持ちが強まって行く】

可愛い♡

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

まだ比較的余裕がある。

語尾が上がる】

はあ……はあ……はあ……はあ……  
♥

【※3回※ ゆっくりと、深く呼吸する。

ここから余裕を取り戻そうとする。

なんだか『主人公のママ』の気分になり始め、主人公の頭を優しく撫でながら、好きなように主人公に乳首を吸わせている】

ふう……。ふう……。ふう……。ふう……。つ。

【※3回※ ゆっくりと、深く呼吸する。

ひとつ前よりは少し早くなる。

余裕を取り戻そうとするが、上手いかなかったのだ。

感じ始めて、最後の『ふー……♥』が、前の二つよりも少し長めの呼吸になる】

ふー……ふー……。

ふー……♥  
」

〈主人公〉

「……♥  
」

だけど主人公は、だんだん物足りなくなってくる。

いや、すごく満たされているのだが、だからこそ、もっと欲しくなっているのだ。

……なーのおっぱい、もっと触りたい。

乳首も、手でもこねこねして、もっと気持ちよくしてあげたい……。

そんな気持ちで、頭をもたげてくる。

● 正面 15センチ

「少し甘えた声で優しく。

いつもおしゃべりな主人公が、セックスの時は無口になる位、無心で胸を愛撫しているのが、とにかく可愛らしいので。

なのでここから、発言しない今の主人公の意図を『おそらく胸を揉んだり、乳首をこねたりしたいのだろう。そうすると、手に感触が伝わって気持ちいいのだろう』と汲んで発言していく」

……うん ♡

「胸を揉む事について言及している。

主人公の身体を優しく撫でながら。

『しようね』が『ちようね』。

『嬉しい』が『嬉ちい』の赤ちゃん言葉になる。

これ以降も時々、赤ちゃん言葉が混じる」

沢山揉み揉みもちようね♥

なーのお乳揉むと、お手手嬉ちいもんね♥」

〈主人公〉

「うん……♥」

主人公、頷くと、七緒に導かれるままに手を乳房に持って行って、やわやわと揉み始める。

すると、瞬く間に七緒の反応が変わり始めて、興奮が高まって行く。

●正面 15センチ

「【※2回※】呼吸する。

とても気持ちいいが、会話するために何とか呼吸を整えている」  
ふう、ふう。

【呼吸に喘ぎが混じる。

主人公がほんのかすかに歯を立て、乳首に甘い刺激が広がったので】

はぁ……っ ♡

【低く、小さく喘ぐ。

耐えるように喘ぐ】

あ。

【低く、小さく喘ぐ。

耐え切れず、その上快感の量が増えて、びくっとする。

主人公が右乳首を吸っているのに加え、左胸を揉んだり、乳首を愛撫し始めたりしたので】

あっ ♡

【低く、小さく喘ぐ。

他の喘ぎよりもやや長めに『びくっ…… ♡』と感じている。

特に気持ちがいいので】

あぁ……っ ♡

【※4回※ ゆっくりと、深く呼吸する。

とても気持ちいいが、会話するために何とか呼吸を整えている。

それでも、段々甘ったるい呼吸になって行く】

ふー……。ふー……。

ふー……。♥

ふー……。っ♥

【主人公が、乳首をこねている事について言及している。  
主人公の身体を優しく撫でながら。

二個目の『して』が『ちて』になる】

うん♥　して？

先っぽこねこねもちて？

【うっとりのため息をつく。

とても気持ちがいいので。

また、快感をきちんと言葉にして伝える事で、主人公に自信を与えたいので】  
はあ……。♥

先輩。すっごい気持ちいいよ……。♥

【※6回※ ゆっくりと、深く呼吸する。

まだ比較的余裕があるが、だんだんそれが少しずつ失われていく】

ふー。ふー。……。ふー。

ふー。ふー。ふー……。♥

【小さく喘ぐ】

あっ……♡

【低く、小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声が下がる】

あ。

【高く、小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声上がる】

あっ……♡  
」

〈主人公〉

「……はー……♡ なーのおっぱい、めっちゃ気持ちいい……♡  
」

そうするうちに、主人公の欲求はますます高まる。

もっともっと七緒をむさぼって、同時に、それ以上のものを与えて。

二人でもっともっと、たくさん気持ちよくなりたい。

そんな気持ちがあふれてくる。

● 正面 15センチ

「【上機嫌で微笑んで。

主人公が、あまりにも素直なので」

……ふふ♡

【優しく同意して。

今日だけでなく、いつも自分のために頑張ってくれている主人公に、何でもしてあげたい気分になっている。

また、乳首を吸われている事で、ますます母性が沸いている」

そうだよね……♡

頑張った日の終わりは、なーのおっぱい欲しくなるもんね♡

【『好きなだけ乳首を吸って、その後は眠ってしまっていていいよ』という意味で言っている。主人公が、甘えたい気分から、一緒に気持ちよくなりたいたい気分に移行している事にはまだ気づいてない」

いいよ……♡

先輩が欲しいだけあげますから。

なーのミルク一杯飲んで、ねんねちようね♡

【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

少しずつ余裕がなくなる」

はあ……。はあ……。

はあ……。っ♡

【高く、小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声が上がる】

あ………



【小さく喘ぐ。

前後の喘ぎに比べて、高さが一定】

あ………っ



【小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声が上がる】

あぁっ………



【※3回※ ゆっくりと呼吸する。

余裕がなくなってきたいる】

はあ………はあ………はぁっ………



」

〈主人公〉

「ダメだ………」 前も言っただろ



わたしは♡ なーと一緒に気持ちよくなるえっちなしかなないからな♡  
絶対寝ないし♡ 今日も一緒にイクんだからな♡」

だけど、主人公がこう告げても、七緒はまだわかっていないらしい。やっぱり七緒は、サービス精神が旺盛すぎるし、性格が奉仕的すぎる。主人公がはつきり主張しないと、なかなか気持ちが伝わらないのだ。

● 正面 15センチ

「くすくすと上機嫌で。

主人公の言葉がとても嬉しいので。

主人公が昨日言った事を、今日も律義に守ろうとしているので、いとおしい。

『ねんね』は『寝る』という意味。

『しないの？』が『ちないの？』になる」

んー……？

ねんねちないの？

【鼻から抜けるように、上機嫌で笑う】

ふふ♡

【にやにやと嬉しそうに。

すでにあまり余裕がない癖に、からかって主人公の言葉を復唱する。わざわざ復唱したいほど、その言葉が嬉しいので。

『気持ちく』は『気持ちよく』という意味で言っている】

今日はなーを気持ちくしないと寝れないの？

【にやにやと嬉しそうに。

主人公が実際には言っていない事を、勝手に代弁してからかう。

主人公が恥ずかしがる姿が見たいので】

でもおっぱいはもっと欲しいんだ。

欲張りさんだね♥」

〈主人公〉

「……………っ♥」

●正面 15センチ

「【優しく上機嫌で】

いいよお？ 先輩の好きにしな？」

SE2 七緒がベッドの上で動く音2

【最初から最後まで流す】

【少し音量を大きくして流す】

七緒、少し近づいて、ささやく。

★正面 ささやき 3センチ ※マークのセリフまでささやく

「優しく上機嫌で」

なーは先輩とのえっちなら全部♥ 全部幸せですから♥※

七緒、元の位置に戻る。

●正面 15センチ

「鼻から抜けるように、小さく喘ぐ。

さらに熱心さを増してきた胸への愛撫に、何とか耐えている」  
んっ……♥

【※3回※ 浅めに呼吸する】

はあ、はあ。はあ。

【※3回※ 浅めに呼吸する。

先ほどとおおむね同じだが。先ほどよりも余裕はない】  
はあ、はあ。はあ。

【※1回※ ゆっくり、深く呼吸する。

先ほどとおおむね同じだが。先ほどよりも余裕はない」  
ふー……♡」

だから主人公は、無言で攻めてやる。

七緒が主人公の想いを身をもって実感するまで、ねっとり攻めてやる。

### ●正面 15センチ

「鼻から抜けるように、くすくす笑う。

きやつきやと、嬉しそうにからかう。

主人公が、熱心に自分の左乳首をこねて、右乳首を吸って、どちらも必死に気持ちよくしようとしている事が嬉しいので。

また、それが何だかまるで『どうかして母乳を出せまいか』と一生懸命になっているように見えるので。

『ミルク出るところ』は『乳首』。

『びゅっびゅごっこ』は『母乳をびゅっと絞り出す真似事』という意味」

ふふ♡

さつきから何（なに）く？

なーのミルク出るとこ一杯こねこねして。

びゅっびゅごっこして遊びたいの？

そんなにしたって♥ お乳出ませんよ？  
毎日してるんだからわかるでしょう？」

〈主人公〉

「……♥」

七緒は今のところ、口では余裕ぶっている。  
でも実際は、いよいよ反応が変わっている。  
めちやくちやに感じ始めているのだ。

●正面 15センチ

「少し高く、耐えるように甘く喘ぐ。

一行ごとに少し間が空く。

ここから声をこらえつつも、だんだん我慢できなくなっていく。

主人公が抗議するように『そんなのわかんないだろ』と言っているかのように、さらに  
丹念に乳首をこねたり、吸ったりし始めたので」

あっ……♥

あ ♡

あっ。

あぁっ…… ♡

【※6回※ 少し早く、浅めに呼吸する、少し興奮気味に。いよいよ余裕がなくなり始める】

はー。はー ♡ はー ♡

はー。はーっ。はーっ…… ♡

【くすくすと嬉しそうに。

甘くからかう。

七緒としては余裕ぶっているが、やや厳しい。当然、主人公にはバレバレである】  
もお……えっち。

先輩のえっち…… ♡

【気持ちよくて、上手く話せなくなってくる。

両胸への同時の愛撫が気持ちよすぎるので。

『それ』は『両胸への愛撫』という意味で言っている】

それっ…… ♡ したらっ ♡

すごいっ ♡

【低く、小さく喘ぐ。

話し続けられないほど気持ちいいので」

あ。

【気持ちよくて、上手く話せなくなってくる。

両胸への愛撫が気持ちよすぎるので。

『感じちゃうんですけど』という短い一言さえ、一気に言えなくなる。間に『ん♡』という喘ぎが混じる】

感じちゃうんっ♡

ん♡

……ですけどっ……♡

【※6回※ 少し早く、浅めに呼吸する、

少し興奮気味に。いよいよ余裕がなくなってきたいる】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。はっっ……♡

【高く小さく、びくっと喘ぐ。

いよいよ主人公が本気を出し始め、特に気持ちのいい場所への愛撫がずっと続くようになっただけで】

あ♡

【気持ちよくて、とろとろになる。

そのせいで、さらに上手く話せなくなってくる。  
両胸への愛撫が気持ちよすぎるので。

『この強さ』が『このちゅよさ』になる」

好き……♡

これ好き……っ♡

このちゅよさ好き……♡

【※6回※ 少し早く、浅めに、鼻息荒く呼吸する、興奮気味に。いよいよ余裕がなくなってきた】

ふー。ふーっ♡ ふーっ。

ふー。ふーっ。ふーっ……♡」

SE3 主人公がベッドの上で動く音

【最初から最後まで流す】

主人公、一度乳首への唇での愛撫をやめると、七緒にキスをする。  
これによって、距離が近づく。

● 正面 0センチ

「※1回※ キスされる。 不意打ちで唇をふさがれるキス」  
ん♡

「※3回※ キスされる。

不意打ちで唇をふさがれるキスから、だんだん深くなり、デ IPP キスに移行していく」  
ん♡ んっ♡ んー……♡

「※しばらく※ キスする。

お互いに夢中で舌を絡める、ねちねちした、ラブラブなデ IPP キス」  
ん♡ ちゅ♡ れろっ♡ ちゅくくっ♡ ちゅ♡

「※3回※ キスする。

主人公に熱心に攻められる、受け身なキス」

んー♡ んー♡ んーっ……♡

「※1回※ キスする。

主人公に熱心に攻められる、受け身なキス。

特に気持ちがよく、唇をふさがれながら、軽くイったような喘ぎ声が漏れる」  
んううう……♡

「苦しそうに、でもあまあまに」

ん♡

「唇を離す。わざとらしいくらい、ちゅぽとした音が出る」

ちゅぽっ♡  
」

二人、一度唇を離す。

これによって、少し距離も離れる。

二人、荒い呼吸で見つめ合う。

〈主人公〉

「……はあ、はあ、はあっ……♡  
」

●正面 15センチ

「【※6回※ 早く、浅めに呼吸する、

興奮気味に。もう余裕がない】

はあ、はあ、はあ。

はあ。はあ。はーっ……♡

【少し間をあけてから。

何とか話し始める。

呼吸が苦しいながらに、嬉しくて、思わず笑ってしまう。

主人公が本気で『一緒に気持ちよくなるセックス』をしようとしているのが伝わってき

たので」

あはっ……っ♡」

七緒、再び近づいてキスする。

●正面 0センチ

「【※1回※ キスする。軽く唇にキスする】  
ちゅ♡」

七緒、寝そべる。

これによって少し離れ、元の距離に戻る。

●正面 15センチ

「【少し間をあけてから。

何とか話し始める。

照れ笑いして。

ここから※マークまで、嬉しくなって、あまあまにおねだりする。

完全に素になり、そのために『わざとらしく媚びている』というよりも『子どもが母親

に甘えておねだりする』ような声になる。

『ママごっこ』とは、先ほどまで行っていた『まるで主人公の母親かのように、優しく赦すような態度』の事。

『気持ちよくて』が『気持ちくても』になる」

せんばあい。

私。折角ママごっこしてたのに。

もう気持ちくても無理です♡」※

〈主人公〉

「……っ♡」

……なーのあまあまおねだり、やばっ……♡  
もうわたしこれだけで、何でもしてあげなくなっちゃうんだけど……。

主人公、そんな事を思いながら、ごくりとつばを飲み込む。

それから大きく息を吸って自分も寝そべり、七緒に顔を近づけた。

二人、またキスする。

●正面 0センチ

「※1回※ キスする。軽く唇にキスする」

ちゅ♡

七緒、主人公の首に両腕を絡めると、近い距離のまま話す。

●正面 3センチ

「ここから※マークまで、あまあまにおねだりする。

完全に素になり、『わざとらしく媚びている』というよりも『子どもが母親に甘えておねだりする』ような声になる。

『なーね。今』は『今、七緒はね』の略」

あのね？ だからね？

なーね。

【『きゅー』をかわいく強調して。

『女性器がきゅんとうずくほど、セックスしたい気持ちが高まっている』という意味で言っている」

今、おまんこきゅーってなってます♡

ほら♡

わかるでしょ♡」※

SE4 七緒がベッドの上で動く音3

【最初から最後まで流す】

七緒、主人公の身体に自分の足を絡め、股間を擦り付けて甘えた声を出す。

● 正面 3センチ

「ここから※マークまで、あまあまにおねだりする。

完全に素になり、『わざとらしく媚びている』というよりも『子どもが母親に甘えておねだりする』ような声になる。

『こややって』が『こやって』になる」

さっきからこやってずっと♡

先輩におまんこ、擦り付けてるのわかるでしょ♡

【※4回※ やや早く、浅く、少しわざとらしく呼吸する。

股間を擦り付けながら話している。

自然と興奮しており、実際はあまり『わざと』の要素はない。

だが、なんだか少し『嘘喘ぎ』っぽくなってしまった」  
はー、はー、はー、はー

って腰振って♡

おねだりしてるのわかるでしょ♡」※

七緒、主人公の左耳に話しかける。

これによって声の方向が『正面』から『左』になる。

### ● 左 3センチ

「ここから※マークまで、ひときわあまあまにおねだりする。

すでに、完全にその気の主人公に、ダメ押しで甘えまくる。

『先輩の』は『先輩の性器』の略。

『ただ裸でぎゅっとし合ってる』は『ただ裸で抱き合っている』という意味で言っている」

※特に聞き手をドキッとさせるイメージでお願いします

ねえ。先輩の欲しい♡

ただ裸でぎゅっとし合ってるだけとか、もう無理♡

先輩のあったかいのなーのにくっつけて♡

【いずれも『貝合わせセックスしよう』という意味で言っている】

一緒に腰ふりふりしながらくちゅくちゅしていききたい♡

ね♡ お願い♡ おまんことおまんこのちゅーしよ♡

先輩のおまんこでいきたい♡ お願い♡ ※

〈主人公〉

「っ……っ♡」

主人公、大きく頷くと、七緒の正面に向き直ってキスする。  
これによって声の方向が『左』から『正面』になる。

●正面 0センチ

「【※1回※】キスする。軽く唇にキスする」

ちゅ♡「」

SE5 七緒がベッドから起き上がる音

【最初から最後まで流す】

七緒、ベッドから起き上がる。  
これによって、少し距離が離れる。

● 正面 15センチ

「【※6回※】 早く、浅めに呼吸する、  
興奮気味に。もう余裕がない。

主人公の身体に自分の身体を絡め、性器を重ね合わせようとしている」

はあ。はあ。はあ。

はあ。はあ。はーっ……♡」

SE 6 主人公と七緒の性器が接する音

「最初から最後まで流す」

● 正面 15センチ

「【低めに、小さく、耐えるように喘ぐ。  
ひとつごとに、どんどん声下がる。

角度をうまく合わせ、主人公と性器を重ね合わせたので。

本編トラック04と同じように、まだ性器を重ねただけで、主人公の体温と性器の感触

を強く感じる程度である。

しかし、それでもとても嬉しく、気持ちいい】

……あ。あ。あ。

【低めに、小さく、びくつと喘ぐ。

語尾が上がる。

クリトリス同士が上手く重なって、とても気持ちいいので】

ああっ……♡

【低く、小さく、唸るように喘ぐ。

何とか快感に耐える】

く。

【※4回※ 早く、荒く、深く呼吸する、

主人公の性器の感触が伝わり、興奮と喜びで大きな声が漏れそうなのを必死に耐える】

ふーっ、ふーっ。

ふーっ、ふー……♡

【小さく、耐えるように喘ぐ】

あ。

うっ……♡

【小さく、耐えるように喘ぐ。

ものすごく気持ちいい」

ああああ……♡

【※3回※ ゆっくりめ、浅めに呼吸する、

まだ動かない事で、なんとか快感に耐える】

はあ、はあ、はあ。

【うつとりと息をつく。

耐えられる程度に気持ちいいのと、何とか最初の快感をこらえ切ったので】  
ふう……。

【※6回※ 少し早く、浅く呼吸する。

何とか落ち着こうとしている】

はー。はー。はあ。

はー。はー。はあっ……」

〈主人公〉

「はー……♡ はー……♡ はーっ……♡」

主人公、七緒がたっぷり感じている様子があまりにも可愛らしくて、思わず凝視する。  
すると目が合い、七緒がにやにや笑ってこちらを見てきた。

●正面 15センチ

「優しくあやすように。」

とろとろの顔の主人公と目が合ったので。

また、主人公が、快感でうっとりしながらも、七緒の感じている顔を凝視している事に気づいたので」

んー？

「少しわざとらしく、甘くからかう。」

自分もとても気持ちよく、とろとろになりながらも、主人公をからかう。

あまりにも主人公が自分をじっと見ていて、嬉しいけれど恥ずかしいので」

もー……♡ 見、過ぎ♡

そんなになーが感じてるところ見たいの？」

〈主人公〉

「……♡」

素直に頷けば、もう七緒のペースだ。

七緒は今日も思いつきり、主人公をからかってくる。

●正面 15センチ

「少しわざとらしく、甘くからかう。

主人公が凝視していた部分について推測し、自分の願望交じりの事を、まるですべて事実かのように述べる。

また、この質問に対し、なんとしてでも『イエス』と言ってほしいと思っている」  
おっぱいもおまんこも？

全部見たいし全部好きなの？

なーの事は全部好き？」

主人公、照れながらも、再び頷く。

言うまでもなく、すべて七緒の言う通りだからだ。

主人公はいつでも、七緒の事が全部好きで、全部見ていたいからだ。

〈主人公〉

「……うん♥ 見たいっ♥ なーの事は全部見たいし、全部好きだっ♥」

●正面 15センチ

「満足げに笑って。

望みが叶い、主人公からとても嬉しい言葉が聴けたので。

多少『言わせた』感はあるけど、聞きたい言葉が聴けた事実に変わりはなく、とても幸せなので」

ふふふ♡

「可愛く甘えて。

完全に素になり、『わざとらしく媚びている』というよりも『子どもが母親に甘えておねだりする』ような声になる」

なーも。

なーも好き♡ 先輩の事。全部好き♡

「甘えながらもからかう。

全身全霊で甘えられるほど主人公を信頼しつつも、やっぱり少し照れがあるので」先輩が感じまくってる『びくびくー♡』って顔、見ながらしたい♡」

七緒、近づいてキスする。

●正面 0センチ

「【※1回※】キスする。軽く唇にキスする」

ちゅ♡  
「

七緒、そのままの距離でささやく。

★正面 ささやき 0センチ ※マークのセリフまでささやく

「甘々に、優しくささやく」

※ひとつ前とのギャップを意識して、聞き手をドキツとさせるイメージでお願いします  
キスしながらしましよ……♡」※

七緒、キスする。

●正面 0センチ

「※5回※ キスする。唇にちゅぱちゅぱと、何度もキスする」

んっく……ちゅ♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

【優しく】

動きますね♡  
「

七緒、腰を動かすために、少しだけ離れる。

**SE7** 性器と性器がこすれ合う音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【セリフと重ねて流す】

【▲1 で速度が一段階早くなる】

【▲2 で速度がさらに一段階早くなる】

【▲3 まで流し続ける】

●正面 15センチ

【※8回※ 少しだけ早く、同じペースで浅く呼吸する。

腰を動かしながら呼吸している】

はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ。はあ。はあ。

【低く、小さく喘ぐ。

とても気持ちよさそうに。

最初は等間隔で動いて、比較的緩やかな刺激から始めようとしていた。

しかし早速気持ちよくなってしまったので」  
あ。あ。

【※10回※ ゆっくり、興奮気味に、同じペースで呼吸する。

しかし、段々等間隔にならなくなり、ペースが乱れたり、やや早くなったりする。  
主人公もまた、七緒を気持ちよくしようと、本気になり始めたので。  
腰を動かしながら呼吸している」

ふー。ふー。

ふー。ふーっ。

ふーっ ♡ ふーっ ♡

ふーっ。ふーっ。

ふーっ ♡ ふーっ……♡

【高く、小さく喘ぐ。

とても気持ちよさそうに。

一行ごとに少し間が空く。

すでに、主人公を優しくリードできるか怪しい位気持ちいいので。

それどころか、攻められ始めているので。

すべて語尾が上がる」

あ ♡

あ ♡

あ。

あ。

あ あっ…… ♡

【※6回※ 少し早く、浅く呼吸する。

何とか呼吸を整えようとしている】

はし。はし。はし。

はし。はし。はし…… ♡

【うっとりとしたため息をついた後、照れ笑いして。

主人公をリードするつもりが、本気の主人公にすっかり負けそうなので。

『セックス』が『せつくしゅ』になる。

腰を動かしながら話している】

はあ……先輩の本気せつくしゅやば…… ♡

上手（うま）すぎ…… ♡

七緒、近づいてキスする。

「※1回※ キスする。軽く唇にキスする」  
ちゅ♡

七緒、会話するために、少しだけ離れる。

●正面 15センチ

「照れ笑いしつつ、嬉しそうに。

自分の意見をはっきり伝える事で、主人公の自己評価の低さを解消したいので。  
腰を動かしながら話している」

先輩。ご自分でわかってないかもですけど。

「うつとりと、嬉しそうに」  
すごい。

えっち。上手（うま）いですよ……♡

「うまく話せなくなってくる。

腰を動かしながら話しており、とても気持ちいいので」  
い、つも。

すごい幸せで……♡ 変になりそうです……♡

「照れ笑いして。」

いつも主人公の事を『あつという間に絶頂してしまう』という意味で『すぐイってしま  
う、よわよわおまんこ』とからかっているのに、自分も全く同じであると気づいたので」

へへ♥

私もよわよわおまんこ。です♥ね♥」

〈主人公〉

「……！」

そのセリフと表情は、ちよつとやばすぎた。

七緒の言葉を借りるなら『クる』というやつだ。

主人公、余裕のない七緒の姿にあからさまに煽られると、褒められるままに調子に乗っ  
て、七緒の弱いところを直に刺激した。

● 正面 15センチ

「【小さく喘ぐ】

あ♥

【高く、小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声上がる】

あ ♡

【低く、小さく喘ぐ。

ひとつ前に比べて、声が下がる。

さらに、段々語尾が低くなる】

あ。

あ。 ♡

【幸せそうに。

あまりにも気持ちいいので】

すご…… ♡

それは効果てきめんで、甘くかすれた声が部屋に響く。

主人公はこの七緒の喘ぎ声が好きだ。

ずっとこの脳が痺れるような響きに酔いしれていた位、七緒の可愛い声が好きなのだ。

● 正面 15センチ

「甘く喘ぐ。

すべて語尾が上がる。

いよいよ、自分でコントロールできなくなり、甘ったるい喘ぎが漏れる」

あっ♡あ♡

あっあっ♡

あ♡

あ♡

【特にとても気持ちよさそうに。

軽くイッてしまいそうなほど気持ちよかったので』

あぁっ……♡

【甘くうっとり。

すっかり主人公に攻められ、それがものすごく気持ちいいので】

これ♡

やば♡

【うっとり、うわごとのように。

ここからすっかり主人公に甘えて。気持ちを一切隠さなくなっている】

先輩。

気持ちいい。気持ちいいです……♡」

▲1 ここで、SE7の速度が一段階早くなる。

●正面 15センチ

「※8回※ 少し早く、うっとりと呼吸する。

すっきり快感のとりこになっている」

ふー、はー。ふー。はー。

ふー。はあっ。ふう。はあっ ♡

「うっとり、ひとりごつのように。

『ずっと、できちゃう』は『ずっとセックスしていたいほど気持ちいい』という意味で  
言っている」

はー……ああ……気持ちいい…… ♡

ずっと、できちゃう。

あー気持ちいい…… ♡

「※8回※ 少し早く、荒く呼吸する。

『ずっとセックスする』ためにも、なんとか呼吸を整えようとしているが、すでに難し  
い」

はーふう、はーふう、はーふう、はーふう…… ♡

「うっとり、あまあまに。

すっかり甘えて。

ここから※マークまで、少しだけ早口で。もうだいふ余裕がなくなってくる。

主人公に完全に心をゆだね、甘えて、素直な本音を打ち明けている」

ねえ先輩♥

セックス気持ちいいですね♥」※

〈主人公〉

「うん……♥ わたしも♥

わたしも、すっげえ気持ちいいよ……♥」

指を絡ませながらそう告げると、額から汗が滴った。

汗はそのまま七緒の腿に落ち、たちのぼる熱気が部屋中に満ちる。

自分達は今、セックスしている。

そんな実感が今更ながらに胸いっぱいに沸いて、何だか幸せで泣きそうになる。

● 正面 15センチ

「うっとり、あまあまに。

すっかり甘えて。

ここから※マークまで、少しだけ早口で。もうだいふ余裕がなくなってくる。

主人公に完全に心をゆだね、甘えて、素直な本音を打ち明けている」

先輩も？ 嬉しい♡

あのね。私ね？ 幸せです。

こんな風に先輩とっ♡

毎日一緒にいられる事っ♡

先輩が私の事。こんな好きでいてくれる事♡

ほんと幸せです♡ ※

〈主人公〉

「なー……♡」

それは、七緒も同じだったようだ。

〈主人公〉

「わたしも……♡ わたしもだぞ♡」

だから涙ながらに主人公が言うのと、七緒も同じように泣きそうにする。自分達は今、きつとぴったり、完全に同じ気持ちだ。

それがわかって、呼吸のように涙がこぼれる。

●正面 15センチ

「【照れ笑いして。主人公と同じ気持ちだとわかったので】へへ。」

【すっかり甘えて、素直に。

ここから※マークまで、先ほどまでよりも、さらにもう少しだけ早口になる。  
※マークに近づくにつれて、少しずつ早くなる】

だからこれからもずっとっ♡

こやって必死で足開いて♡ 腰へこへこして♡

恥ずかしくって誰にも言えない事一杯しましょうね♡

【※8回※ 早く、荒く呼吸する。

『ずっとセックスする』ためにも、今の自分の気持ちを伝えるためも、なんとか呼吸を整えようとしている。

だが、すでにかなり難しい】

はーふう、はーふう、はーふう……♡

【いよいよ我を失い、とろとろになりながらも、主人公への愛情を伝える。

『好き』を合計8回連呼する。

連呼するうち、どんどん余裕がなくなっていく」

ああ好き。好き。好き。好きです。

先輩好き。好き。好きっ。好きいい♡ ※

【※6回※ 早く、浅く呼吸する。

今日も主人公とイきたい。

なので、主人公の様子を見ながら、何とか耐えようとしている」

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♡」

〈主人公〉

「な……♡ わたし。もうっ……♡」

そして、ピークが近づく。

お互い、嬉しすぎて興奮しすぎて、ペース配分を間違えてしまったらしい。

● 正面 15センチ

「【※3回※ 少しゆっくり目に呼吸する。

ほんの少しだけ余裕ができる」

ふう、ふう、ふう……。

【優しく、ゆっくりと、嬉しそうに。

余裕ぶるために、わざとゆっくりめに言う。

心は。満足感と安心感に満たされている。

今日も、主人公を無事イカせる事ができそうなので】

んー……？

イきそう……？

先輩もイきそう？」

〈主人公〉

「うん ♡ もうっ…… ♡ ……やばいっ…… ♡ 」

照れ笑いしながら認めると、どうやら七緒も同じ状況らしかった。  
それが嬉しくて、二人は顔を見合わせてくすくす笑う。

● 正面 15センチ

「【かわいく、あまあまに。

子どもが母親に甘えるような声になる】

ほんと？

なーも。なーもイきそう ♡

いいよ？ 今日も一緒にイこ ♡

▲ 2 ここで、SE7の速度がもう一段階早くなる。

● 正面 15センチ

「【※6回※ 呼吸する】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ…… ♡

【低く、びくつと喘ぐ。

あまりにも気持ちよかったので】

あっ…… ♡

【うっとりとうわごとのように。

また、なんとか耐えるように。

『いい』はいずれも『気持ちいい』の略】

いい…… ♡ いいっ…… ♡

【※6回※ 早く、浅く呼吸する。

今日も主人公とイきたい。

なので、主人公の様子を見ながら、何とか耐えようとしている。

だが、自分もそろそろもたない」

ふう。ふう。ふう。

ふう。ふう。ふう……。

【低くうめくように喘ぐ】  
う。

【高く、うっとりとうわごとのように。

もうイきそうなので】

※『そろそろ絶頂ポイント』と伝わるように、わかりやすくお願いします

気持ちいい……♡

【低く、びくつと喘ぐ。

あまりにも気持ちよかったので】

あ♡

【うっとりとうわごとのように。

いく前に、何とかこれは伝えておきたいので】

先輩。好きです。

好き……♡

大好きです♥」

七緒、キスするために近づく。

●正面 0センチ

「【※1回※ キスする。軽く唇にキスする】  
ちゅ♥」

七緒、元の距離に戻る。

●正面 15センチ

「かわいく、あまあまに。

ここから※マークまで、少し早口で。

※マークに近づくにつれ、少し早くなっていく  
イこ。

先輩イこ。

なーとイこ。

イこイこイこ？ ※

【※6回※ 早く、浅く呼吸する。

もうそろそろイきそう】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♡

【※7回※ とても早く、浅く呼吸する。

今日も主人公とイきたい。

なので、主人公の様子を見ながら、何とか耐えようとしている。

だが、自分もそろそろもたない】

ふーっ、ふーっ。ふーっ。ふーっ。

ふう、ふう。ふうっ♡

〈主人公〉

「っ……♡」

ぎゅっと手を握りしめて、そのまま目も閉じそうになるのに耐えて。

ぼろぼろ涙をこぼしながら、主人公は七緒を見つめる。

それが合図だと、七緒も理解したのだろう。

一瞬小さく微笑むと、それはすぐ切なげな表情に変わって……。

ほどなくして二人は、同時に上りつめた。

●正面 15センチ

「低く、小さく、耐えるように喘ぐ。

一つ目と二つ目で間が空き、何とか耐えようとするが『もう完全に限界だ』と悟る」

あ。

あ。

【絶頂する。

小さく、耐えるように、でもすごく気持ちよさそうに喘ぐ】

※『ここが絶頂ポイント』と伝わるように、わかりやすくお願いします

あああっ……♡」

手を繋いだまま小さく痙攣して、一緒に達した二人はよろける。

そのままベッドに倒れ込み、はあはあと荒い呼吸を重ねた。

▲3 ここで、SE7がフェードアウトする。

SE8 七緒がベッドの上で動く音4

【最初から最後まで流す】

● 正面 15センチ

「【※9回※】 とても早く、荒く、深く呼吸する。

だんだんゆっくりに、穏やかになり、さらに呼吸も深くなる。

これだけ呼吸が荒くなるほど、気持ちのいいセックスだったので」

※『絶頂ポイントを迎えた後』と伝わるように、わかりやすくお願いします

ふーっ ♡ 　ふーっ ♡ 　ふーっ ♡ 　ふーっ ♡

ふー ♡ 　ふーっ ♡ 　ふー ♡ 　ふーっ ♡

ふーっ …… ♡

【とても嬉しそうに。今日も主人公と一緒にいく事が出来たので】  
ふふ」

二人、笑いながら顔を寄せ合うと、そのままキスをする。

以後七緒、左耳側に移動するまで、ほぼそのままの距離で話す。

● 正面 0センチ

「※1回※ キスする。軽く唇にキスする」  
ちゅ。

「とても嬉しそうに、満足げに。」

「今日も主人公と一緒にいく事が出来たので」  
「今日も一緒にイけましたね……♡」

〈主人公〉

「うん♡ 今日も一緒にイッたな……♡」

● 正面 0センチ

「※1回※ キスする。軽く唇にキスする」  
ちゅ♡」

七緒、左耳にささやく。

これによって声の方向が『正面』から『左』になる。

★ 正面 ささやく 3センチ ※マークのセリフまでささやく  
「【心底幸せそうに、優しくささやく】

大好きですよ、先輩……♡」

ここでフェードアウトして終了。